

京都の文化財

第三十九集

京都府教育委員会

京都の文化財

第三十九集

京都府教育委員会

序 文

京都府教育委員会は、令和二年三月に京都府文化財保存活用大綱を策定しました。その中で、「府内各地で守り育てられた文化財が、地域に愛され、誇りとして適切に保護・継承されていること」を目指すべく将来像と決めました。その将来像に向け、地域が一体となって文化財を守り伝えていく環境づくりに取り組んでいるところです。

昨今の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会情勢の不安の中で、文化財も厳しい状況に置かれています。しかし、文化財には、地域の歴史や文化を理解する上でも、地域の未来を考えていく上でも大変重要な価値があります。その重要性が認識され、地域に愛され、誇りとされるためには、まずは地域の文化財を知ることが大切です。

本誌は、令和二年度に本府が指定した三件の文化財及び決定した一件の文化財環境保全地区の紹介と、登録をした暫定登録文化財八九件の一覧を掲載しており、府内の貴重な文化財を発信する内容となっています。

刊行に当たり御協力をいただいた各文化財所有者と関係機関の皆様には感謝申し上げますとともに、本誌が京都の歴史や文化を御理解いただく上での一助となり、府内の文化財の保存と活用に役立てば幸いです。

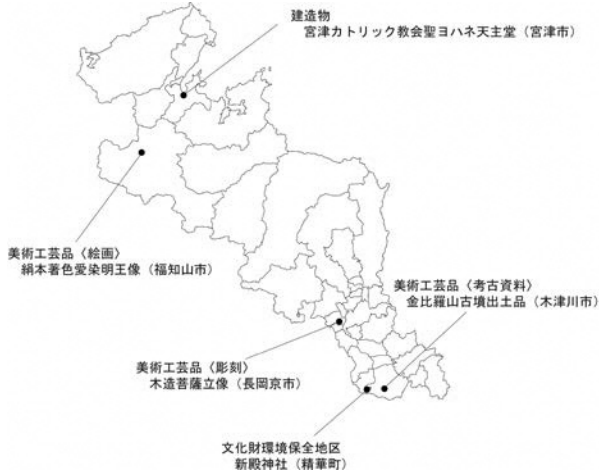
令和四年一月

京都府教育委員会

教育長 橋本 幸三

凡例

- 一、本図録には、令和二年度の京都府指定・暫定登録文化財等を収めている。
- 二、掲載の順序は、美術工芸品をはじめに種別ごととした。
- 三、本文の掲載は、原則として次のとおりとした。
 - 名称 員数
 - 所在地の住所
 - 所有者
 - 法量（単位はセンチメートル）・構造形式等
 - 時代
 - 解説
- 四、本文は令和二年度に京都府教育委員会文化財保護課が作成した調書をもとに編集した。また、各文末に執筆者名を明記した。



目次

| | | |
|---------------------------|------|----|
| 有形文化財 | | |
| 美術工芸品 | | |
| 絵画 絹本着色愛染明王像（金光寺） | 福知山市 | 4 |
| 彫刻 木造菩薩立像（勝龍寺） | 長岡京市 | 7 |
| 考古資料 金比羅山古墳出土品 | 京都市 | 10 |
| 文化財環境保全地区 | | |
| 新殿神社文化財環境保全地区 | 精華町 | 15 |
| 平成三〇年度答申・令和三年一月五日告示府指定文化財 | | |
| 有形文化財 建築物 | | |
| 宮津カトリック教会聖ヨハネ天主堂 | 宮津市 | 17 |
| 令和二年度指定文化財一覧 | | 20 |
| 令和二年度暫定登録文化財一覧 | | 24 |

※これまで刊行された『京都の文化財』、『守り育てようみんなの文化財』は、京都府教育委員会文化財保護課のホームページで閲覧することができます。

<http://www.kyoto-be.ne.jp/bunkazai/>

美術工芸品

絹本着色愛染明王像

一幅（絵画）

福知山市喜多六八七
宗教法人 金光寺

法 量 縦一四八・六 横 八六・八（描表装含む）

単位 センチメートル

品質構造 絹本着色掛軸装。一副一鋪。

図 様

一面三目六臂の愛染明王が宝瓶上の蓮華座上に結跏趺坐する姿を描く。明王は五鉤鉤を上には飾る獅子冠を戴き、髪は怒髪。口を開き、目を吊り上げた憤怒相を呈す。腕は右から第一手に五鉤杵、第二手に矢、第三手は現状補彩部が多いものの蓮華の一部が認められることから、蓮華を執っていたものと考えられる。左は第一手に五鉤鈴、第二手に弓、第三手は拳とする。服装は上半身に条帛をつける。下半身は一番上に腰衣を、下に裙とさらにもう一枚裳を着す。耳環、胸飾、瓔珞、臂釧、腕釧、足釧を身に付ける。

蓮華座は花卉の外側に三面宝珠を表す。明王の背後に頭光、身光、さらに外側に大円相を表し、蓮華座を円相内に収める。大円相の下に宝瓶を表す。宝瓶は胴部に双龍を描き、左右の両耳に帯を結ぶ。宝瓶から宝珠が溢れ出る様を表し、壇上にはさらに多くの三面宝珠などが並んでいる。

本作はさらに描表装となっており、二重の金泥の界線の内側に三鉤杵を繋ぎ、さらにその外側を輪宝と羯磨文とする。

明王の肉身は肥瘦の少ない墨の輪郭線に朱色で表現する。諸所に朱の具色を用いて体の膨らみを表現する。髪や眉は墨の毛描の上から金泥でさらに毛描する。目は墨の輪郭線で瞼を表し、その内側は目頭と目尻に白緑色を入れ、さらに眼球を白色

とし、黒目（角膜）を墨で丸く囲む。黒目の内側は墨点を中心に金泥、朱色の順に囲む。条帛は丹色地に雷文繫文を截金で表し、腰衣は現状茶褐色を呈す。裙には円相内に鳳凰を顔料の盛り上げによる線描で描いた鳳凰丸文が施される。裙下の裳は表を丹色地に麻葉文、裏を褐色地に籠目文とし、文様を截金で表す。また裳の裏の末端部は金泥で別の文を表す（文様不詳）。各装飾や持物の金具部には金泥の盛り上げ彩色が見られ、右第三手の蓮華は金泥で隈を表し、その上に線状に截金を施す。この表現は壇上の三面宝珠下の蓮華と共通する。

蓮華座の蓮弁は朱色の縹縹彩色の上に線状に截金を施し、蓮弁外側の中心には緑色や青色の宝珠が描かれる。大円相内には金泥のグラデーシオンによって火焰が表現され、その他、壇上では緑色の床には金泥の、青色の床には銀泥の雲気が繊細に表現されている。宝瓶の彩色にも細かく金泥の盛り上げ彩色が用いられている。また、多く描かれる宝珠は各種顔料を用いて鮮やかに縹縹彩色される。当初と思われる描表装の金具部にも金泥盛り上げ彩色がなされる。

伝 来

金光寺は諸史料から、応安三年（一三七〇）から永和年間にかけて名実ともに三岳山の蔵王権現の別当寺として整備されていったものと考えられている。しかし、創建を記す記録などはなく、本作の伝来についても詳らかでない。

昭和三八年（一九六三）福知山市指定文化財に指定。

令和元年（二〇一九）京都府暫定登録文化財に登録。

保存状態

軸が巻いてある状態の際に被ったと考えられる被害によって、鈍角三角形の規則的な本紙の欠失が画面左上より、画面左下まで認められる。上部では欠失が大きく、画面の半分以上の長さに及んでいるが、下に行くにつれて短くなり、愛染明王の像自体を大きく損なうものではない。欠失部には補絹が施され、図様を補う意図のある補彩・補筆が認められる。また、本紙の諸所に顔料の剥落が認められ、本来はより装飾性の豊かな画面であったことが想像される。本紙の描表装を模したと考



絹本著色愛染明王像（全図）

えられる風帯は後補。

時代 鎌倉時代

説明

福知山市金光寺に伝来した一幅の愛染明王像である。愛染明王は唐の金剛智が訳出したとされる『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』に説かれる密教尊で、平安後期に私的な密教修法が発達するのに伴い、愛染法の本尊として脚光を浴び、鎌倉時代以降本格的に流行した。本作のような独尊画像もそのような信仰の隆盛に伴って数多く制作されたと考えられており、現存最古とされる細見美術館本が平安時代後期の作とされ、以降、鎌倉時代の作例が多く現存している。

本作は図像としては通例のもので、類例としては重要文化財に指定されている金剛三昧院本（和歌山県）や長徳寺本（千葉県）が知られている。しかし、金剛三昧院本と長徳寺本が蓮華座の前に宝瓶を置く形をとり、宝瓶と蓮華座との間に前後関係を生じさせている点は本作との違いとして指摘できる。

本作の最も特筆すべき点は彩色の華麗さであり、繊細な截金表現や纏繡彩色、抑制された金泥盛り上げ彩色など、入念で丁寧な賦彩が見られる点である。特に愛染明王の着衣にみられる截金表現は精緻であり、制作者が平安仏画の截金表現をしっかりと受け継いでいることを物語っている。装飾性の点では先に挙げた両作に劣ることはなく、寧ろ宝瓶の宝珠文様を金泥ではなく各顔料で彩豊かに表現するなど工夫が見られ、優れた作行きを示す。類例との前後関係や図像系統についてはより詳細に検討する必要があるが、それらの優れた描写から、一三世紀、鎌倉時代の作品と考えられる。

加えて、輪宝と羯磨文の描表装が施されている点でも貴重である。このような描表装は中世の仏画にしばしば見受けられるが、南北朝時代とされる作例を中心に多く現存しており、本作は独尊像に施された描表装を残す作例のうち比較的古い例として注目される。

三岳山の中腹にある金光寺は三岳蔵王権現の別当寺として鎌倉時代末から南北朝

時代にかけて創建されたと考えられる（本尊は不動明王）。創建当初より密教的性格が認められるが、江戸時代初期には高野山宝城院の末寺となっており、ことが知られる。本画像がいつごろ同寺の所有となったか定かではないが、金剛三昧院本との類似と合わせ、愛染明王像の展開を考える上で興味深い作例といえる。

中世に遡る愛染明王像の作例は決して少なくはなく、府内でも細見美術館本と醍醐寺本が重要文化財に指定されているほか、鎌倉時代と考えられる作例として、廬山寺本や楞嚴寺本、海住山寺本などが知られているが、その中においても本作は高い画技に基づいた彩色の華麗さが特筆される典型的な愛染明王像の優品として重要な価値を有する。

参考文献

京都府文化財保護基金『京都の美術工芸 中丹編』一九八二年

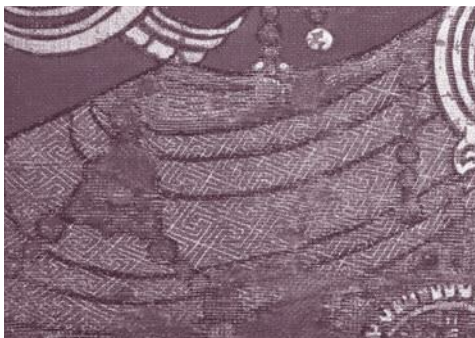
福知山市史編纂委員会『福知山市史 第二巻』一九八二年

福知山市教育委員会『文化財が語る福知山の歴史』一九九七年

（長谷川 貴信）



面部



条帛の雷文繫文など

木造菩薩立像

一軀（彫刻）

長岡京市勝竜寺一九の二五
宗教法人 勝龍寺

法 量

| | | | |
|--------|------------|--------|------|
| 像高 | 九五・八 | 髮際高 | 八一・二 |
| 頂—顎 | 二四・三 | 面長 | 九・六 |
| 面幅 | 九・〇 | 耳張 | 一一・六 |
| 面奥 | 一二・六 | | |
| 胸奥（左） | 一四・九（衣を含む） | 胸奥（右） | 一四・三 |
| 腹奥 | 一五・二 | 肘張 | 二八・八 |
| 裾張 | 二一・二 | 足先開（外） | 一六・三 |
| 足先開（内） | 八・六 | | |
| 台座高 | 三七・五 | 台座幅 | 五九・五 |
| 台座奥 | 四九・三 | | |

単位 センチメートル

形 状

高髻を結う。天冠台は紐二条彫出。頭髮は天冠台の上下とも毛筋彫で、髮際では毛筋を複数の髮束に分ける。鬢髪耳を渡る。髮際に後れ毛を表す。白毫旋毛形。耳朶環状貫通。三道を表す。耳孔（深いが像内に貫通しない）、鼻孔を穿つ。唇の括りをあらわす。条帛・天衣・裙・腰布をつけ、腰紐の括りを正面にあらわす。臍を彫出する。裙は両脛外側でたるみを表し、裙裾は地付きに至らず、両足をくるぶしあたりまでのぞかせる。左手は屈臂してみぞおち前で掌を仰向けにして五指を伸ばす。右手は屈臂して正面胸前やや右よりで宝珠をささげる。天冠、胸飾・腕釧を着ける。腰を左に捻り、右足を半歩前に出して立つ。

品質構造

針葉樹材。一木割短造。素地仕上げ。玉眼嵌入。白毫水晶製嵌入。

頭体幹部は木心を前方に大きく外す一材から彫出し、両耳後ろを通る線で前後に割り短く。正面は胸飾下辺で、背面は襟際で割首とする。髻別材製。天冠台前面は帯状に短ぎ付ける。両肩、肘前で各短く。腕釧下で両手首を短く。腰帯の腹前の括りの垂下部別材製。両足踵から足柄は体幹部材と共木で彫出し、左足は割足とする。両足先に各別材を短く。右の裾先に小材を短く。天衣遊離部別材製。

表面は素地仕上げ。

頭髮青。髮際青。元結紐赤。唇赤。天冠、胸飾、腕釧金属製。

記 録

（台座裏墨書銘 正面側）
文明十年（戊／戌）三月廿八日修復佛師東寺大仏師宮内卿
同四月五日（丁酉／鬼宿）重而開眼供養畢 導師法印権大僧都融覚（東寺一臈／八十九才）
願主法師榮堯生年四十九才勝龍寺住僧蓮池坊
（同 背面側）
永祿七年（甲／子）八月十六日於修復而重開眼供養畢 同當寺住呂專
勝坊雄善

本堂建立御本尊修復佛師宗師見法眼 開眼導師嵯峨明王院法印雄範記
之

伝 来

本像は、聖観音像として伝来した像で、勝龍寺本堂宮殿内に、木造十一面観音立像厨子の左右に、木造十一面観音立像とともに向かい合わせに安置される。

台座底面の墨書銘によれば、文明一〇年（一四七八）三月二八日に、東寺大仏師宮内卿により修理され、同四月五日に法印権大僧都融覚を導師、僧榮堯を願主として開眼供養されたという。また同墨書銘によれば、永祿七年（一五六四）に本堂の再建に合わせて、仏師法眼宗見により仏像の修復が行われ、八月一六日に法印雄範を導師、僧雄善を願主として開眼供養されたという。



全身背面



木造菩薩立像 全身正面



全身右側面



像底

昭和五三年一月三日、長岡京市指定文化財に指定。
令和二年三月二四日、京都府暫定登録文化財に登録。

時代 鎌倉時代 説明

勝龍寺は、寺伝によれば大同年間に空海が開基し、その後応和二年（九六二）に勝龍寺と改められたという、真言宗の寺院である。延元元年（一三三六）の兵乱に罹り焼失し、翌年復興されたが、天正一〇年（一五八二）の山崎の合戦で専勝坊を除き焼失したという。室町時代には幕府によって所領の保護を受けていたことが知られる。

本像は、勝龍寺の本堂内に、本尊十一面観音像（重要文化財）の脇仏として安置され、寺では聖観音像とされる。頭体幹部を一材から彫出し、両耳後ろで前後に割矧ぐ割矧造で、表面は素地仕上げとする檀像風の像である。上体をやや右に向け、腰を左に捻り、右足を半歩前に出す動きのある姿勢を見せる。

その造形は、非常に高い髻やひきしまった量感ある体躯の表現などに、鎌倉時代初期の特徴が顕著である。特に、頂部に向かってわずかに先細りとなる髻の形や、四角張った顔、見開きの強い目などの頭部の特徴は、建久三年（一一九二）快慶作の醍醐寺木造弥勒菩薩坐像（国宝）に類似する。耳の形も、対耳輪の上脚が斜め上前方を向く形が醍醐寺像と共通しているとの指摘がある。また、腰布をつけ、裾は両脛外側でたるみを表し、裾裾は地付きに至らず、両足をくるぶしあたりまでのぞかせる。こうした裾と腰布の形式は、文治五年（一一八九）快慶作のアメリカカボストーン美術館木造弥勒菩薩立像と類似している。このように、本像は仏師快慶の初期の作例と類似した造形的特徴を持つことから、快慶周辺の慶派仏師により、鎌倉時代初期に制作されたものと考えられる。



台座裏墨書銘

また、図像については、本像は右手を屈臂して胸前で宝珠をささげ、宝珠を持つ右手の下に左手を添える手勢が注目される。このような手の構えは珍しく、鎌倉時代の作例には類例が乏しいものの、飛鳥時代後期の奈良・法起寺の銅造菩薩立像（重要文化財）と共通している。本像には化仏がなく、当初の尊格は確定できないものの、飛鳥時代に作例の知られる宝珠を捧げ持つ観音像として作られた可能性も指摘されている。図像的にも珍しい特徴をそなえたものとして注目される。

本像の台座底面には墨書銘があり、室町時代の文明一〇年（一四七八）に、東寺

大仏師宮内卿により修理され、同年四月五日に権大僧都法印融覚を大導師、勝龍寺の住僧栄堯を願主として、開眼供養が行われたことが記される。また永禄七年（一五六四）には、仏師宗見によつて修理され、八月一六日に開眼供養されたことが記される。この台座銘は、同じく勝龍寺宮殿内に安置される木造十一面観音立像（府暫定登録文化財）の台座銘（承応二年・明暦元年の銘がある）と同筆とみられ、近世に過去の記録をもとに転記されたものと考えられるが、本像の伝来、修理過程を示す手がかりとして貴重である。

以上のように、本像は鎌倉時代初期に慶派仏師により制作された菩薩像で、快慶風に通じる特徴を備えた優品である。また、宝珠を胸前に持つ、図像的にも珍しい菩薩像として貴重なものである。

（桑原 正明）

参考文献

京都府文化財保護基金『京都の美術工芸 乙訓・北桑・南丹編』一九八〇年
長岡京市史編さん委員会『長岡京市史 建築・美術編』一九九四年

金比羅山古墳出土品

（考古資料）

京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町

京都府

保管：京都府立山城郷土資料館

（第一埋葬）

一、斜縁二神二獣鏡

一面

一、玉類

翡翠勾玉

二箇

碧玉勾玉

二箇

ガラス小玉

三〇箇

一、刀剣類

鉄刀

二口

鉄剣

一〇口

一、農工具類

鉄鉈

一本

鉄斧

四箇

鉄刀子

四口

鉄蒺手刀子

五口

鉄鑿

二本

鉄針

六本

鉄鎌

四箇

鉄鍬

四箇

一、用途不明鉄製品残欠

四点

（第二埋葬）

| | |
|-------------|-----|
| 一、土製円筒棺 | 一合 |
| 一、農工具類 | |
| 鉄鉈 | 四本 |
| 鉄斧 | 二箇 |
| 鉄刀子 | 一口 |
| 鉄蒺藜手刀子 | 五口 |
| 鉄鋸 | 一箇 |
| 鉄錐 | 一本 |
| 鉄鎌 | 三箇 |
| 鉄手鎌 | 二箇 |
| 一、用途不明鉄製品残欠 | 三点 |
| (墳丘) | |
| 一、埴輪 | |
| 円筒形埴輪 | 二八箇 |
| 朝顔形埴輪 | 二箇 |
| 家形埴輪片 | 一八点 |
| 蓋形埴輪片 | 五点 |
| 鞍形埴輪片 | 一点 |
| 線刻埴輪片 | 一点 |
| 不明形象埴輪片 | 四点 |
| 一、農工具類 | |
| 鉄鎌 | 一箇 |
| (帰属不明) | |
| 一、管玉 | |
| 碧玉管玉 | 二四箇 |

説明

本資料は、宇治市広野町寺山にかつて所在した金比羅山古墳の埋葬施設及び墳丘上から出土した一括資料である。

金比羅山古墳は径約四〇mの古墳時代中期前半の円墳である。南山城地域で最大級の首長墳群である久津川古墳群に含まれる。昭和三九年(一九六四)に宅地造成計画に伴って京都府教育委員会が発掘調査を実施した。

発掘調査では、墳丘頂部平坦面で、粘土槨一基(第一埋葬)、隣接して土製円筒棺一基(第二埋葬)が検出された。そして、墳丘では埴輪列と埴輪棺二基、外堤で埴輪棺一基が確認されている。

発掘調査終了から現在に至るまで脆弱な遺物が風化して滅失し、さらに、保存管理体制が未だ整備途中であったために一部の遺物が混在したことから、現存する遺物の数量は調査概報(京都府教育委員会一九六五)の報告文とは若干の異動がある。

(第一埋葬)

第一埋葬は全長七mを超す粘土槨で、全長六・七mの割竹形木棺が設置されていた。一部が攪乱されていたが出土品は全般に良好な状態で出土した。

所在が確認された第一埋葬の出土品は、棺内から出土した斜縁二神二獣鏡一面、翡翠勾玉二箇、碧玉勾玉二箇、ガラス小玉三〇箇と、棺外から出土した鉄刀二口、鉄剣一口、鉄鉈一本、鉄斧四箇、鉄刀子四口、鉄蒺藜手刀子五口、鉄鑿二本、鉄針六本、鉄鎌四箇、鉄鋸四箇、用途不明鉄製品残欠四点である。

斜縁二神二獣鏡は直径一五・七cmの舶載鏡で、製作年代は後漢末期から三国時代の三世紀前半代に比定され、金比羅山古墳に副葬されるまで少なくとも一〇〇年以上の伝世が想定される。銘帯には、逆時計回りに「吾作明竟自有紀。令人長命宜孫子。大吉。」の銘文がある。内区には侍仙を従えた神像二体と、獣像二体が配置される。獣像の文様表現は比較的鮮明であるが、神像は顔面など肉厚な部分の文様表現がやや模糊としている。上方神像の特徴は、頭部に鋸歯状の三山冠をかぶり、顔面には

顎髭と頬髭が表現されることである。「東王父」とみられる。下方神像は顔の目鼻が模糊として細部が不明であるが、頭部には双卷冠をつけ、着衣表現が上方神像と異なる。「西王母」とみられる。上方の側面形の侍仙は、横の東王父を向いて正座し、拝礼するような姿勢である。下方の侍仙は起立し、体は正面を向き、上方を見上げる。左方獣像は斜めを向いて口を開け、右方獣像は正面を向く。

翡翠勾玉二箇は、全長二・一cmと二・三cmで、いずれも頭部に線刻が施される丁字頭勾玉で、孔は両面穿孔である。色調は緑色を呈す。碧玉勾玉は全長三・三cmと三・四cmで、いずれも片面穿孔である。一点の色調は灰緑色を呈す。もう一点の色調は淡灰緑色を呈し、赤色顔料が付着する。ガラス小玉の材質は全てカリガラスで、コバルトで着色される。

鉄刀二口は全長二三・九cm、二四・五cmでほぼ同大である。古墳時代の鉄刀としては小型である。把や鞘といった有機質部品はほとんど残っていない。

鉄剣一〇口は全長二三・五cm～四〇・〇cmで、そのうち八口は三〇cm以下に収まる。全般に剣身は薄く華奢な造りで、一口を除き鍔が不明瞭である。鉄刀と同様に、有機質部品はほとんど残っていない。

農工具類は、用途が判明したものが八器種で、豊富な器種構成である。特徴的な遺物として、古墳時代前期末に出現し中期末まで存続する鉄蒺手刀子が挙げられる。

(第二埋葬)

第二埋葬は第一埋葬の西側に位置し、主軸線がほぼ平行していた。全長約四mの墓壙の中に粘土を敷き、土製円筒棺を設置した後さらに粘土で覆う構造であった。所在が確認された第二埋葬の出土品は、埋葬施設である土製円筒棺一合と、棺外から出土した鉄鉞四本、鉄斧二箇、鉄刀子一口、鉄蒺手刀子五口、鉄鋸一箇、鉄鎌一本、鉄鎌三箇、鉄手鎌二箇、用途不明鉄製品残欠三点である。

土製円筒棺は、円筒棺本体と蓋二箇から構成される(大木二〇二〇)。
円筒棺本体は、埴輪を転用したものではなく、埴輪の製作技術を応用して製作さ



第一・第二埋葬出土副葬品

れた専用の棺である。全長一六四・〇cm、口径五一・四cm、底径五〇・八cmの円筒形で、外面には二条の横位突帯を貼り付ける。横位突帯間には斜め方向の突帯を平行に貼り付け、右上がりの斜行突帯と左上がりの斜行突帯が段ごとに交互に配置され、全体として綾杉状となる。外面には黒斑が認められ、外面調整の横ハケメは静止痕が残らない。本資料の類例は奈良盆地の古墳で数例確認されている。

蓋一は、円筒棺の北側を閉塞した蓋である。半球形で、全高二〇・〇cm、長径五八・二cm、短径五六・四cmを測る。外面中に突帯を一条、さらに下端部外面にも突帯を貼り付ける。外面には黒斑があり、内面には赤彩が一部残存する。

蓋二は、円筒棺の南側を閉塞した蓋である。半球形で、全高二〇・九cm、長径五七・二cm、短径五三・八cmを測る。形状は蓋一と共通する。

農工具類は、第一埋葬と同様に八器種が出土した。ただし構成は若干異なり、第



第二埋葬出土土製円筒棺



形象埴輪（家形埴輪・蓋形埴輪・鞍形埴輪・不明形象埴輪）破片



円筒形埴輪・朝顔形埴輪

一埋葬で出土した鉄鑿、鉄針、鉄鋏は含まれないが、鉄鋸、鉄錐、鉄手鎌が含まれる。特筆されるのは、鉄鉈四箇のうち、鉄刀子を鉄鉈に転用したとみられる二箇である。一箇は鉄刀子の茎部を鉄鉈の刃部に改変したもので、鉄刀子の刃部には鉄鉈の木柄が装着されている。もう一箇は鉄刀子の刃部先端を鉄鉈の刃部に改変したものである。両資料とも、本来の鉄刀子の形状を残した状態で転用され鉄鉈にされている。当時の農工具の利用過程の実態を示す資料である。

（墳丘）

墳丘から出土した埴輪のうち指定の対象とするのは、円筒形埴輪二八箇、朝顔形埴輪二箇、家形埴輪片一八点、蓋形埴輪片五点、鞍形埴輪片一点、線刻埴輪片一点、不明形象埴輪片四点である。円筒形埴輪と朝顔形埴輪は墳裾部及び墳丘中段に樹立

した状態で出土したもの（円筒形埴輪二四箇）と、埴輪棺に転用されたもの（円筒形埴輪四箇、朝顔形埴輪二箇）がある。家形埴輪等の形象埴輪は、墳頂部や墳丘斜面の中段で多く出土している（注）。

円筒形埴輪のうち、ほぼ完形となる個体の全高は六八・〇cmで、四条の突帯をもつ。二・四段目には縦列に透孔を穿つ。多くの円筒形埴輪で底部高や突帯間隔が揃い、統一性がある。突帯を貼り付ける以前に、突帯間隔を揃えるため、凹線を施す。外面調整には、タテハケのほか、二次調整として工具を埴輪から離さず連続してヨコハケが施されハケメ工具の静止痕が認められる。また、焼成は野焼きで行われ、黒斑が確認できる。

朝顔形埴輪は復元全高が約九〇cmで、五条の突帯をもち、二・四・五段目に千鳥に透孔を穿つ。形態は円筒形埴輪と異なるが、外面調整や焼成方法については共通し

ている。

家形埴輪は、切妻屋根や、棟木、壁体、裾廻突帯部の破片が確認できる。裾廻突帯の形状から、総計四箇体以上が樹立され、大型と小型のものがあつたと想定される。

蓋形埴輪は、立飾部、笠部、肋木部の破片が出土している。立飾部は、文様を施すものと施さないものがある。

鞍形埴輪は矢筒部が出土しており、文様によって布張りが表現されている。

線刻埴輪片は円筒形埴輪または朝顔形埴輪の体部に、綾杉状の文様や弧状の平行沈線などの複雑な線刻が施されたものである。埴輪棺と共に出土しており、同様の破片が埴輪列から出土していない点から、製作段階から埴輪棺としての使用を想定して刻まれた可能性がある。

また、墳丘から鉄鎌一点が出土した。

(帰属不明)

碧玉管玉二四箇が現存するが、どの資料が第一埋葬、第二埋葬に帰属するのかが不明である。概報(京都府教育委員会二九六五)では、第一埋葬から碧玉管玉約二〇箇、第二埋葬から碧玉管玉一七箇が出土し、両埋葬施設から出土した管玉は特徴が類似するとされる。現存する管玉の数量から、第一・二埋葬の管玉が混在していると考えられる。

碧玉管玉は淡い灰緑色が多いが、暗い色調の資料も含まれる。全長二・〇cmから三・〇cmほどの短身の一群と、全長五・〇cmから五・五cmほどの長身の一群に分けられる。

金比羅山古墳出土品は、二つの埋葬施設から出土した副葬品や土製円筒棺、そして墳丘上から出土した埴輪といった、古墳を構成する各種遺物の一括出土品である。

第一、第二埋葬の副葬品組成をみると、中国製の斜縁二神二獣鏡や、翡翠製勾玉等の玉類が目立つ。鉄製品は農工具類が大部分を占めるが、武器類は第一埋葬出土の

刀剣だけである。本資料は組成が優れるにも関わらず、この時期の古墳からの出土事例が多い、鉄鍬や鉄甲冑といった軍事的色彩の強い副葬品が含まれない。両埋葬の被葬者の、首長としての性格や役割を検討する上で示唆的である。

また、第二埋葬の土製円筒棺は特徴的な埋葬施設で、類例は奈良盆地に限定される。当時の南山城地域と奈良盆地の首長間の交流を示す資料と位置づけられる。

埴輪は、規格性の高い円筒形埴輪が多く、形象埴輪の種類も豊富である。本資料はこの時期の埴輪編年の基準資料として以前から紹介され(川西一九七八)、副葬品の内容も判明していることから、全国的にも古墳時代中期前半の基準資料として位置づけられる。

以上のように、金比羅山古墳出土品は、京都府における古墳時代の文化を示す資料として、高い学術的価値を有する。

なお、本資料の指定と同時に、金比羅山古墳発掘調査の正報告書を二〇二一年に刊行(京都府教育委員会二〇二二)し、詳細な報告を掲載しているので合わせて参照されたい。

(古川 匠)

参考文献

京都府教育委員会「金比羅山古墳発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』一九六五年

川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第六四卷第二号 日本考古学会一九七八年

犬木努「宇治市金比羅山古墳出土の円筒棺について」『山城郷土資料館報』第二六号 二〇二〇年

京都府教育委員会『金比羅山古墳発掘調査報告書』二〇二二年

(注) 埴輪の特徴については、当課北山大照の分析を参考にした。

文化財環境保全地区

新殿神社文化財環境保全地区

相楽郡精華町山田医王寺地

宗教法人 新殿神社

説明

新殿神社は、近鉄山田川駅の北西、木津川台住宅が所在する丘陵の東端部に位置する。

創建沿革については詳らかでないが、応長元年（一三二一）に綴喜郡普賢寺村（現京田辺市普賢寺）より勧請遷宮されたと伝える。明治までは隣接して別当寺の医王寺があり、関連して応長二年（一三二二）の銘のある梵鐘が残る。また、中世に起源をもつ宮座が維持されていることから、遅くとも室町時代には創建されていたものと考えられる。近世には、山田村及び乾谷村の産土神として「天王宮」または「植樹神社」と呼ばれていた。

境内地は、丘陵地の南端部、東西に細長い区域を占める。参道は境内地の南西隅の丘陵下から北東方向に直線状に設けられ、境内地の中央西寄りを本殿域とする。本殿域は東面して鳥居を構え、中央に舞台を、南北両脇に氏子詰所を、西奥に割拝殿形式の社務所・祓所を設け、さらにその西奥中央に本殿「府指定有形文化財、天文一六年（一五四七）」を、南に末社八幡宮を、北に末社八王子社「府指定有形文化財、一六世紀中期」を並べ、正面を玉垣で、側背面を石垣・ブロック塀（外側には旧土塀の一部が残る）で囲む。また、本殿域の南側には、土塀を境界として医王寺の跡地があつて、現在も薬師堂などが残り、鳥居の東方には十三重塔「重要文化財、延徳三年（一四九二）」が建つ。本殿域の東方には駐車場として使用している空地があり、本殿域と医王寺跡地、空地の周囲は境内林となっている。境内地の周

囲は、商業施設や学校、霊園などが設けられ、高速道路も通され、開発の進む区域となっている。

なお、宝暦三年（一七五三）の普請願書では、本殿正面の玉垣が増設され、本殿域は現状に近い構成で描かれている。また、境内地には、江戸中期以降の銘を持つ石灯笼や鳥居が残るほか、本殿周囲の石垣に弘化三年（一八四六）の、石垣上の雪見灯笼には元治元年（一八六四）の銘が確認でき、近世を通じて境内の整備が行われたことが確認できる。

境内林の植生は、コジイを主としたものとなっている。このコジイ林は、境内林としての極相を呈しているとみられ、境内の環境を保っている。境内北側にはススキ・マツ林が広がるが、この範囲はかつて隣接する学校の仮教室が建設されていた場所にあたる。また、境内西側にはモウソウチク林が侵入している。

このように、新殿神社の境内は、本殿並びに末社八王子社を核とした建築物・工作物が中心となり、周囲にコジイを主とした境内林が広がり、諸要素が複合した優れた神社環境を保っている。また、周辺の開発が進む中であつて、里山地域の中の「鎮守の森」としての景観も保ち、府指定の文化財の保存を図るうえで欠かせないものとなっている。以上のことから、境内地約一・九九ヘクタールを文化財環境保全地区に決定し、文化財の周辺環境についても保全を図ることとする。

（村瀬 由紀史）



本殿域正面



本殿域（手前：舞殿、左奥：氏子詰所、右奥：社務所・祓所）

平成三〇年度答申・令和三年一月五日告示府指定文化財

宮津カトリック教会聖ヨハネ天主堂は、平成三〇年度の京都府文化財保護審議会
で指定の答申を受けた後、未告示となっていました。令和三年一月五日付けで
告示されましたので、あわせて掲載します。

建造物

みやづ
宮津カトリック教会聖ヨハネ天主堂

一棟

宮津市字柳繩手三四七
宗教法人 カトリック京都司教区

構造形式

木造三廊式教会堂、建築面積二〇八・一平方メートル、一部中二階、棧瓦葺

附 鬼瓦（一個）

明治廿一年六月日の窺書がある

鱧瓦（二個）

主祭壇断片（七個）

建立年代

明治二九年（一八九六）「ファンライト銘」

説明

宮津カトリック教会は、フランス人宣教師ルイ・ルラップ神父によって設立され
た。ルラップ神父は、一八五七年にフランス・リヨン郊外のサンティアンに生まれ、
明治一八年（一八八五）にパリ外国宣教会神学校を卒業後、ただちに日本に派遣さ
れ、明治二二年（一八八八）からは若狭・丹後・但馬地域へのキリスト教布教に従

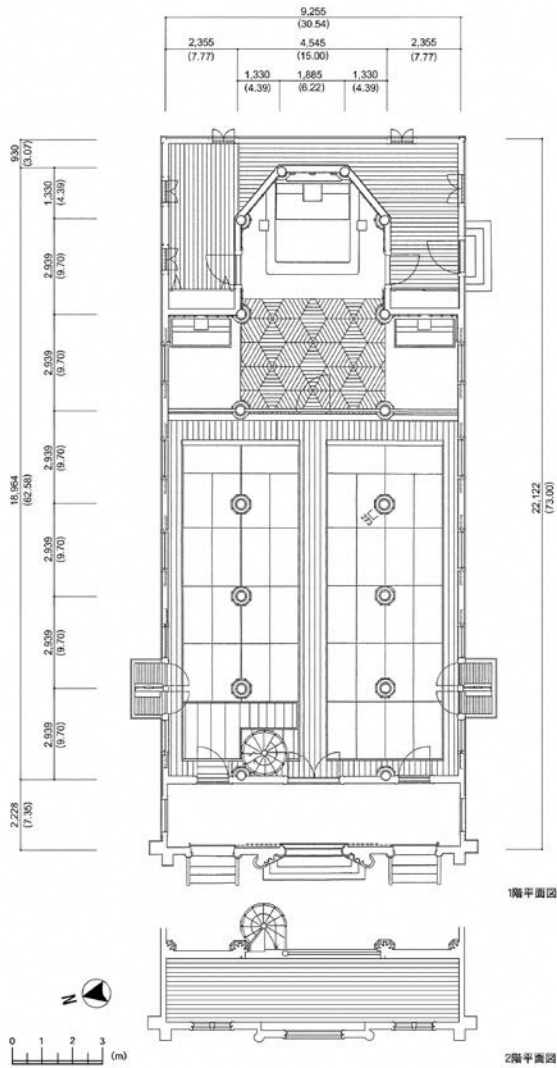


聖ヨハネ天主堂 外観 正側面

事した。同年末に一軒の借家を見つけ、キリスト教に入信した家主から敷地とともに
それを譲り受け、現在の宮津カトリック教会を設立、明治二九年（一八九六）に
は教会敷地に天主堂を献堂させた。近年教区の統廃合が進み、建物は正式にはカト
リック丹後教会宮津教会堂洗者聖ヨハネ天主堂と呼ばれている。

敷地は、宮津港に注ぐ大手川河口近くの左岸に所在し、大手川を背後に聖ヨハネ
天主堂を西面させ、南に司祭館を配置する。天主堂正面から西に道を伸ばし、順に

右手にルラーブ会館、左手に宮津暁星幼稚園を建てる。天主堂は、洗者ヨハネに献ぜられ、設計はルラーブ神父自らが行った。施工には宮津の日本人大工・太井正司があたり、祭壇用の聖像及びステンドグラスの色ガラスは直接フランスから取り寄せたという。昭和二年（一九二七）の北丹後地震により外装等を破損、同年中に改修を行い、正面入口の車寄を廃し、拝廊を新たに設けて、香部屋を背面側に増築した。昭和二年（一九四九）の担当神父交代に際し、改修工事が行われ、告悔室が増築される等の改変が加えられ、昭和五十一年（一九七六）の宮津教会献堂八〇周年にあたり、瓦の葺替えと外装整備として、スクリーン壁の吹付モルタル仕上げとペンキの塗替えが行われた。

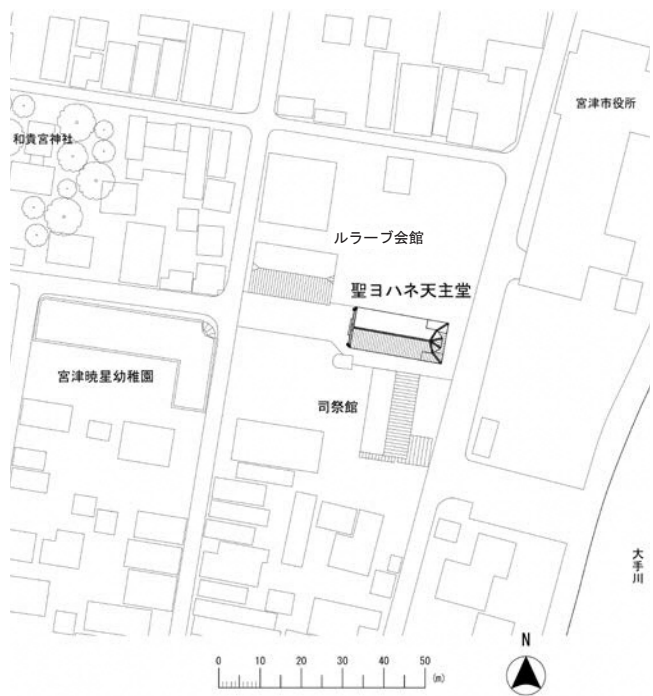


聖ヨハネ天主堂 平面図



外観 側背面

平面は、東西に長い矩形の三廊バシリカ形式で、西に正面入口及び拝廊、東に八角形を半切りにした内陣を含有する至聖所と、内陣を囲む香部屋が配され、拝廊上部の二階には聖歌隊席を設ける。会衆席は列柱により中央の身廊と両側の側廊に三分され、南北面にはそれぞれ西寄りに小規模な告悔室を突出する。内部は、石造礎盤の上に木造丸柱を立て、その上部に柱頭飾及び迫元を載せる。会衆席及び至聖所の天井は、板張りの交差リブ・ヴォールト天井とし、身廊・側廊とも独立柱及び持送りの迫元が直接円アーチのリブを支え、すべてのリブ交差部にボスが置かれる。身廊部の高窓は省略され、漆喰塗による飾り窓を頂く。至聖所には、アルター・プラットフォームの上に中央奥祭壇が、両脇に副祭壇が安置され、副祭壇上の壁面より持送りを張出し、その上に北側にキリスト、南側に聖母



宮津カトリック教会 配置図

マリアの彫像をそれぞれ立てる。また至聖所内陣の南北壁面にも持送りを設け、北に洗者聖ヨハネ、南に聖ヨゼフの彫像をそれぞれ立て、会衆席の床は畳敷とする。

明治期のカトリック教会は、大浦天主堂〔慶応元年（一八六五）献堂、明治八年（一八七五）改築、国宝、長崎県長崎市〕をはじめとして、全国の重要文化財及び府内現旧所在の建物で八棟が確認され、その内五棟が長崎県内に所在する。長崎県以外の地域では京都河原町教会聖ザビエル天主堂〔明治三年（一八九〇）献堂、昭和四八年（一九七三）移築、愛知県大山市〕が最も早い例で、宮津カトリック教会聖ヨハネ天主堂はこれに次いで古く、日本におけるキリスト教教会建築の歴史を知る上で貴重な建築である。特に会衆席の身廊・側廊に分け隔てなく敷かれた畳は注目に値し、我が国における当時のカトリック教会伝道の姿を今に伝える。また、複雑なリブ・ヴォールトを木造で組むことは、大工技術としては相当に高い技量を要求され、その手腕が高く評価できるが、その一方で小屋組のトラス下弦の陸梁を中央で継ぐ点等からは、洋小屋組の構造を十分に理解していなかったことが看取され、外国人技師の関与が十分な官公営的な建築とは異なり、洋風建築の施工技術が我が国に受容されていく過程を示す建築といえる。

以上のように、宮津カトリック教会聖ヨハネ天主堂は、カトリック教会堂として全国でも初期の建築であり、教会堂の歴史を考える上で貴重である。また、堂内の意匠はカトリック教会堂として高い完成度を示し、我が国において西洋から導入した技術が民間に受容されていく一例を示すものとして、学術的にも価値が高い。

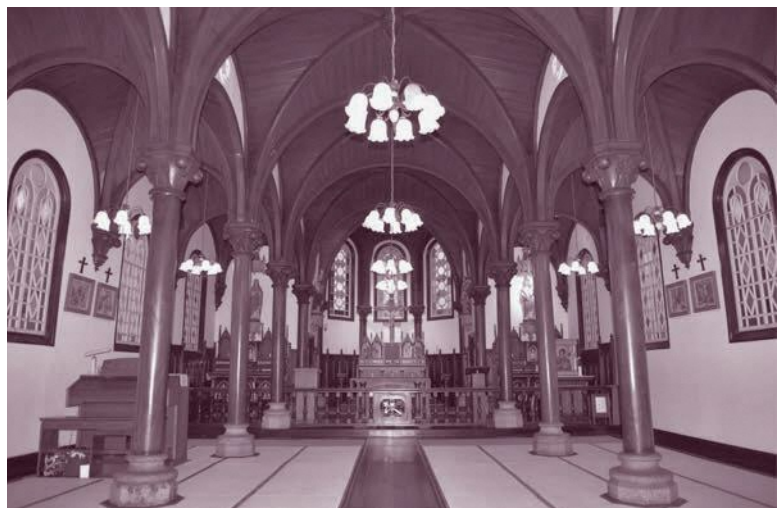
（村瀬 由紀史）

参考文献

ルイ・ルラブ師金祝記念會『受品及日本未任五十年金祝記念』一九三五年
京都府教育委員会『京都府の近代化遺産 京都府近代化遺産（建造物等）総合調査報告書』二〇〇〇年



至聖所・内陣



会衆席及び至聖所



小屋組



会衆席至聖所境木柵



会衆席見返し及び聖歌隊席

京都府指定登録暫定登録文化財・文化財環境保全地区・選定保存後術・文化的景観件数一覧（その1：指定・決定・選定 R3年4月1日）

| 種別 区分 | 年度 | 有形文化財 | | | | | | | | | | 無形文化財 | 無形民俗文化財 | | | 記念物 | | | | | 合 計 | 全 地 区 保 護 | 選 定 保 存 技 術 | 文 化 的 景 観 | 總 計 | | | |
|----------|------------|----------------------|-----------|----------|-------------|------------------|-------------|------------------|------------------|------------|--------------------|--------------------|------------------|----------|----------|----------|-----------------------|---|----------------------------|----------|----------|-----------------------|----------------------------|-----------------------|----------|----------------------|------------------|----------------------|
| | | 建造物 棟 (基) 数 | 絵 画 | 彫 刻 | 工 芸 品 | 書 跡 典 籍 | 古 文 書 | 考 古 資 料 | 歴 史 資 料 | 小 計 | 風 俗 慣 習 | | 民 俗 芸 能 | 小 計 | 史 跡 | 名 勝 | 天 然 記 念 物 | 及 び 天 然 記 念 物 購 物 | 及 び 史 跡 勝 跡 | 小 計 | | | | | | | | |
| 指 定 | 57 | △2 9 | △6 16 | 2 | 4 | 7 | △1 1 | △1 1 | | | | △2 15 | (認定1) 1 | | △1 1 | △1 3 | △2 4 | 6 | 3 | 2 | | | △0 11 | △6 40 | 15 | | | △6 55 |
| | 58 | △2 9 | △3 22 | 6 | 4 | 4 | | △1 2 | 1 | | | △1 17 | | | 2 | 4 | △0 6 | △1 2 | 3 | 1 | | | △1 6 | △4 38 | 9 | | | △4 47 |
| | 59 | △1 7 | △3 18 | △1 3 | 3 | 2 | | 1 | △1 1 | | | △2 10 | | 1 | 1 | △1 6 | △1 7 | 2 | △1 3 | 1 | | | △1 6 | △5 31 | 11 | | | △5 42 |
| | 60 | △2 7 | △4 11 | 3 | 3 | 2 | | △1 2 | 1 | | | △1 11 | | | | | △0 0 | 2 | 1 | 2 | | | △0 5 | △3 23 | 4 | | | △3 27 |
| | 61 | △1 10 | △15 39 | | 1 | | 1 | 1 | | | | △0 3 | | | | | △0 0 | △1 2 | 1 | △1 2 | | | △2 5 | △3 18 | 5 | | | △3 23 |
| | 62 | 3 | 8 | 3 | 3 | | | △1 4 | 2 | | | △1 12 | | | | | △0 0 | 1 | 1 | 1 | | | △0 3 | △1 18 | 4 | | | △1 22 |
| | 63 | △1 3 | △6 11 | 3 | 3 | 1 | | 3 | 1 | | | △0 11 | | | | | △0 0 | | 1 | 1 | | | △0 2 | △1 16 | 1 | (認定2) 1 | | △1 18 |
| | 元 | 4 | 9 | 2 | 1 | | | △1 2 | 1 | 1 | | △1 7 | (認定1) △1 2 | △1 1 | | | △0 0 | | 1 | 1 | | | △0 2 | △3 16 | 1 | | | △3 17 |
| | 2 | 1 | 1 | 1 | △1 1 | 4 | | 5 | 1 | | | △1 12 | | | 3 | | △0 3 | | 1 | 1 | | | △0 2 | △1 18 | 2 | (認定2) △2 2 | (認定1) △1 1 | △3 22 |
| | 3 | 6 | △1 12 | 3 | 2 | 4 | 2 | 1 | | | | △0 12 | (認定4) △3 4 | | | | △0 0 | | | | | | △0 0 | △3 22 | | | | △4 23 |
| | 4 | △1 4 | △4 16 | 1 | 1 | | | | 1 | | | △0 3 | | | | | △0 0 | 1 | | 1 | | | △0 2 | △1 9 | 1 | | | △1 10 |
| | 5 | 5 | 13 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | △0 5 | | | | | △0 0 | | 1 | | | | △0 1 | △0 11 | 1 | | | △0 12 |
| | 6 | △1 2 | △5 9 | 2 | △1 2 | 1 | | 3 | | 1 | | △1 9 | (認定2) △1 2 | | | | △0 0 | △1 1 | | | | | △1 1 | △4 14 | 1 | | | △4 15 |
| | 7 | 2 | 6 | | 2 | 2 | | 2 | 1 | 2 | | △0 9 | (認定2) △1 1 | | | | △0 0 | | | | | | △0 0 | △1 12 | 1 | | | △1 13 |
| | 8 | 3 | 6 | 2 | △1 2 | 1 | | 2 | | 2 | | △1 9 | | | | | △0 0 | | | | | | △0 0 | △1 12 | 2 | (認定2) △1 2 | | △2 16 |
| | 9 | 3 | 9 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | △0 8 | (認定2) 1 | | | | △0 0 | 1 | | | | | △0 1 | △0 13 | 1 | | | △0 14 |
| | 10 | 3 | 14 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 2 | | △0 8 | | | | | △0 0 | | 1 | | | | △0 1 | △0 12 | 1 | | | △0 13 |
| | 11 | 2 | 17 | 2 | 2 | | 1 | 1 | | | | △0 6 | | | | | △0 0 | | 1 | | | | △0 1 | △0 9 | 1 | (認定1) △1 1 | | △0 10 |
| | 12 | △1 3 | △1 12 | △1 2 | △1 1 | 1 | | 2 | 1 | △1 1 | | △3 8 | | | | | △0 0 | 1 | | | | | △0 1 | △4 12 | 1 | | | △5 14 |
| | 13 | 5 | 20 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | | △0 7 | | | | | △0 0 | 1 | | | | | △0 1 | △0 13 | 1 | | | △0 14 |
| | 14 | 4 | 11 | 1 | △1 1 | △1 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | △2 7 | | | | | △0 0 | 1 | | | | | △0 1 | △2 12 | 1 | | | △2 13 |
| | 15 | △1 3 | △4 10 | △1 1 | 1 | △1 2 | △1 2 | | 2 | | | △3 8 | | | | | △0 0 | | 1 | | | | △0 1 | △4 12 | 1 | | | △4 13 |
| | 16 | 3 | 8 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | | 1 | | △0 8 | (認定1) 1 | | | | △0 0 | | 1 | | | | △0 1 | △0 13 | 1 | | | △0 14 |
| | 17 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | | △0 6 | (認定2) △1 1 | | | | △0 0 | 1 | | | | | △0 1 | △1 11 | 1 | | | △1 12 |
| | 18 | 2 | 11 | △1 3 | 1 | 2 | 1 | | 1 | | | △1 8 | | | | | △0 0 | | 1 | | | | △0 1 | △1 11 | | | | △1 11 |
| | 19 | 2 | 4 | 2 | 1 | | 2 | | | | | △0 5 | | 1 | | | △0 1 | | | | | | △0 0 | △0 8 | 1 | | 3 | △0 12 |
| | 20 | 1 | 4 | 1 | 1 | △1 1 | | 1 | 1 | | | △1 5 | (認定3) △1 3 | | | | △0 0 | 1 | | | | | △0 1 | △2 10 | | | 2 | △2 12 |
| | 21 | 2 | 10 | △1 2 | 1 | | | 1 | 1 | | | △1 5 | | | | | △0 0 | | | | | | △0 0 | △1 7 | | | 2 | △1 9 |
| | 22 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | | 1 | | | | △0 5 | (認定4) △1 2 | | | | △0 0 | 1 | | | | | △0 1 | △1 10 | | | 1 | △1 11 |
| | 23 | 1 | 9 | 1 | 1 | | 1 | | | | | △0 3 | | | | | △0 0 | | | | | | △0 0 | △0 4 | | | 1 | △0 5 |
| 24 | 4 | 6 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | △0 4 | (認定1) 1 | | | | △0 0 | | | | | | △0 0 | △0 9 | | | | △0 9 | |
| 25 | 2 | 4 | 2 | 1 | | 3 | | | | | △0 6 | | 1 | | | | | | | | | △0 9 | | | | | △0 9 | |
| 26 | 3 | 4 | 1 | 1 | | | | | | | 2 | (認定1) 2 | | | | | | | | | | | 5 | | 1 | | 6 | |
| 27 | 2 | 3 | 2 | 1 | 1 | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | 6 | | | | 6 | |
| 28 | 2 | 6 | 3 | 1 | | 1 | | | | | 5 | | | 1 | | 1 | | 2 | | | | 2 | 10 | | | | 10 | |
| 29 | 8 | 10 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 11 | | | 18 | | 1 | 1 | | 1 | | 1 | | | | 2 | 30 | | | | 30 | |
| 30 | 3 | 5 | 3 | 3 | | 1 | 3 | | | | 10 | (認定1) 1 | | | | | 2 | | | | | 2 | 16 | | | | 16 | |
| 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | | 1 | | | | 3 | | | 1 | | 1 | | | | | | 1 | 6 | | | | 6 | |
| 2 | | | 1 | 1 | | | 1 | | | | 3 | (認定25) △9 20 | | △1 4 | △1 11 | △2 13 | △3 24 | △3 28 | △1 20 | △1 16 | △0 1 | △0 0 | △5 65 | △53 549 | △0 69 | (認定8) △5 7 | △0 10 | (認定30) △59 635 |
| 計 | △13 139 | △52 381 | △5 74 | △5 60 | △3 45 | △2 17 | △5 48 | △1 39 | △1 14 | △22 297 | (認定25) △9 20 | △1 4 | △1 11 | △2 13 | △3 24 | △3 28 | △1 20 | △1 16 | △0 1 | △0 0 | △5 65 | △53 549 | △0 69 | (認定8) △5 7 | △0 10 | (認定30) △59 635 | | |

(注) (1) 建造物の棟(基)数は、件数に含めない。
 (2) △印は、重要文化財に指定又は文化財の焼失等により、京都府の指定が解除となった件数(棟数)で内数である。
 (3) 無形文化財及び選定保存技術の保持者又は保持(保存)団体の認定数(〇)は、件数に含めない。また、計の認定数は累計数であり、解除された件数を差し引いてはならない(令和3年4月1日現在の認定数は、無形文化財16、選定保存技術3)。

京都府指定登録暫定登録文化財・文化財環境保全地区・選定保存後術・文化的景観件数一覧（その2：登録、合計 R3年4月1日）

| 種別 | 年度 | 有形文化財 | | | | | | | | | | 無形文化財 | | | 記念物 | | | | | 合計 | 区文化財環境保全地区(決定) | (選定保存技術) | (選定) | 文化的景観 | 総合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------------------|-----------|-----------|-----------|----------|---------|---------|----------|---------|----------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|----------------|----------|-------------|-------------|----------|---------|-------------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | 建造物(棟数) | 美術品 | 書跡 | 古文書 | 古資料 | 歴史資料 | 小計 | 民俗文化 | 民俗芸能 | 小計 | 史跡 | 名勝 | 天然記念物 | 及天然記念物勝物 | 名勝 | 小計 | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 画 | | | | | | | 刻 | 品 | 籍 | 書 | 料 | 計 | 計 | 計 | 計 | 計 | 計 | | | | | | | | | |
| 登録 | 57 | ▲2 25 | ▲7 44 | 5 | ▲2 2 | 4 | 1 | ▲2 12 | | | | 6 | ▲0 6 | | | | ▲0 0 | ▲4 43 | | | | | | ▲4 43 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 58 | 7 | 11 | | 2 | 1 | ▲0 3 | | | | 4 | ▲0 4 | ▲1 5 | | | | ▲1 5 | ▲1 19 | | | | | | ▲1 19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 59 | ▲1 11 | ▲1 15 | | 2 | | | ▲0 2 | | | | 5 | ▲0 5 | 1 | | | ▲0 1 | ▲1 19 | | | | | | ▲1 19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 60 | 5 | 11 | | 2 | | | ▲0 2 | | 1 | 1 | 5 | ▲0 6 | | | | ▲0 0 | ▲0 14 | | | | | | ▲0 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 61 | 6 | 9 | 1 | 1 | 2 | | ▲0 8 | | | | 6 | 3 | ▲0 9 | | | | ▲0 0 | ▲0 23 | | | | | | ▲0 23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 62 | 4 | 10 | | | 2 | 2 | ▲0 4 | | 2 | 5 | 1 | ▲0 6 | | | | ▲0 0 | ▲0 16 | | | | | | ▲0 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 63 | 1 | 5 | | | | | ▲0 0 | | | | 4 | 1 | ▲0 5 | | | | ▲0 0 | ▲0 6 | | | | | | ▲0 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 元 | 2 | 8 | | 1 | | | ▲0 1 | | 4 | 2 | 3 | ▲0 5 | | | | ▲0 0 | ▲0 12 | | | | | | | ▲0 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 2 | 2 | 2 | | | | ▲0 2 | | 1 | | 3 | ▲0 3 | | | | ▲0 0 | ▲0 8 | | | | | | | ▲0 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | | 2 | ▲0 2 | | | | ▲0 0 | ▲0 3 | | | | | | | ▲0 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | ▲1 4 | ▲1 5 | | | | 3 | ▲0 3 | | | | 2 | ▲0 2 | | | | ▲0 0 | ▲1 9 | | | | | | | ▲1 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | | 2 | ▲0 2 | | | | ▲0 0 | ▲0 3 | | | | | | | ▲0 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | 2 | 3 | | | | | ▲0 0 | | | | 1 | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 3 | | | | | | | ▲0 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 2 | 3 | | | | | ▲0 0 | | 1 | | | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 3 | | | | | | | ▲0 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | 1 | 1 | | ▲0 2 | | | | ▲0 0 | ▲0 3 | | | | | | | ▲0 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | 1 | 4 | | | | | ▲0 0 | | 1 | 2 | | ▲0 3 | | | | ▲0 0 | ▲0 4 | | | | | | | ▲0 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 1 | 2 | | | | | ▲0 0 | | 2 | 1 | | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 4 | | | | | | | ▲0 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11 | 1 | 1 | | | 1 | | ▲0 1 | | 2 | 1 | | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 5 | | | | | | | ▲0 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | | 1 | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 2 | | | | | | | ▲0 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | 1 | | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 2 | | | | | | | ▲0 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | | 1 | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 2 | | | | | | | ▲0 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | 1 | | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 2 | | | | | | | ▲0 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 16 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 1 | | | | | | | ▲0 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 17 | 2 | 3 | | | | | ▲0 0 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 2 | | | | | | | ▲0 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 18 | | | | | | | ▲0 0 | | | 1 | | ▲0 1 | | | | ▲0 0 | ▲0 1 | | | | | | | ▲0 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 1 | | | | | | | ▲0 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | 1 | 1 | | | | | ▲0 0 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 1 | | | | | | | ▲0 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | ▲0 0 | | | 1 | | ▲0 1 | | 1 | | ▲0 1 | ▲0 2 | | | | | | | ▲0 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | ▲0 0 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 0 | | | | | | | ▲0 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | 1 | 3 | | | | | ▲0 1 | | | | | ▲0 0 | | 1 | | ▲0 1 | ▲0 3 | | | | | | | ▲0 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 | 1 | 2 | | | | | ▲0 0 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 1 | | | | | | | ▲0 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | 2 | 4 | | 1 | | | ▲0 1 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 3 | | | | | | | ▲0 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26~30 | 平成26年度～30年度は新たな登録が無いため省略。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | ▲0 0 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 0 | | | | | | | ▲0 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | ▲0 0 | | | | | ▲0 0 | | | | ▲0 0 | ▲0 0 | | | | | | | ▲0 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | ▲4 90 | ▲9 155 | ▲0 8 | ▲2 11 | ▲0 9 | ▲0 1 | ▲0 8 | ▲0 1 | ▲0 2 | ▲0 2 | ▲0 40 | ▲0 0 | ▲0 12 | ▲0 24 | ▲0 46 | ▲0 70 | ▲0 0 | ▲1 22 | ▲0 2 | ▲0 7 | ▲0 0 | ▲0 0 | ▲1 8 | ▲13 220 | ▲0 0 | ▲0 0 | ▲0 0 | ▲7 220 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 暫定登録 | 29 | ▲5 548 | ▲5 548 | ▲3 167 | ▲48 | 20 | 43 | 108 | 11 | 397 | 45 | | | | | ▲1 22 | 2 | | | | | 2 | ▲1 26 | ▲13 1016 | | | | ▲13 1016 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 30 | ▲2 39 | ▲2 39 | ▲1 12 | 3 | 4 | 5 | 7 | 1 | 32 | 4 | | | | | 5 | 3 | | | | | | ▲0 8 | ▲3 133 | | | | ▲3 133 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | 43 | 43 | ▲1 9 | ▲1 10 | 1 | | 5 | ▲1 5 | ▲3 30 | | | | | 1 | 1 | | | | | | | ▲0 2 | ▲3 75 | | | | ▲3 75 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 45 | 45 | 25 | 16 | 0 | | 0 | 2 | ▲0 43 | | | | | | 1 | | | | | | | ▲0 1 | ▲0 89 | | | | ▲0 89 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | ▲7 725 | ▲7 725 | ▲2 213 | ▲4 77 | 1 | 24 | 53 | 122 | 12 | 502 | 0 | 49 | 0 | 0 | 0 | ▲1 29 | 6 | 0 | 0 | 0 | 2 | ▲1 37 | ▲19 1313 | 0 | 0 | 0 | ▲19 1313 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(注) (1) 建造物の棟(基)数は、件数に含めない。
 (2) ▲印は、重要文化財、府指定文化財等に指定又は文化財の焼失等により、京都府の登録が解除となった件数(棟数)で内数である。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------------|------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|--------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|----------|-------------------|----------|---------------------|------------|
| 合計 | △13 ▲11 | △52 ▲16 | △5 ▲2 | △5 ▲6 | △3 ▲0 | △2 ▲0 | △5 ▲0 | △1 ▲5 | △1 ▲0 | △22 ▲13 | (認定25) △9 ▲0 | △1 ▲0 | △1 ▲0 | △2 ▲0 | △3 ▲0 | △3 ▲1 | △1 ▲0 | △1 ▲1 | △0 ▲0 | △0 ▲0 | △5 ▲2 | △53 ▲26 | △0 ▲0 | (認定6) △5 ▲0 | △0 ▲0 | (認定33) △0 ▲10 | △58 ▲26 |
| | 954 | 1261 | 294 | 147 | 55 | 42 | 109 | 161 | 28 | 836 | 20 | 65 | 35 | 59 | 94 | 57 | 27 | 23 | 2 | 110 | 2079 | 69 | 7 | 10 | 2165 | | |

※合計表内の認定数は累積数を表している。

令和二年度京都府暫定登録文化財一覽

※文化財の名称には一部略称を使用した。

〈建造物〉

- 【京都市】▽聚光院表門▽吉田神社末社齋場所東神明社▽吉田神社末社齋場所西神明社▽吉田神社末社齋場所東諸神社▽吉田神社末社齋場所西諸神社▽吉田神社末社齋場所東御廊▽吉田神社末社齋場所西御廊▽護国院客殿▽護国院経蔵▽西来院客殿▽西来院庫裏▽西来院表門▽常光院玄關▽堆雲軒客殿▽堆雲軒表門▽退耕庵表門▽大中院客殿▽大中院玄關▽大中院書院▽大中院表門▽大統院玄關▽大統院表門▽仲源寺表門▽兩足院書院▽兩足院庫裏▽兩足院供待▽兩足院台所門▽常寂光寺仁王門▽常寂光寺山門
- 【亀岡市】▽延福寺本坊▽延福寺鐘樓▽延福寺二天門▽延福寺表門▽神蔵寺本堂▽真福寺瑞雲軒▽龍潭寺方丈▽龍潭寺三宝殿▽龍潭寺開山堂▽龍潭寺鐘樓
- 【南丹市】▽城崎神社本殿▽熊野神社本殿▽熊野神社拝殿▽若宮神社本殿▽若宮神社拝殿
- 【与謝野町】▽西禪寺本堂
- 〈美術工芸品〉「」内所有者
- 【京都市】▽三輪玉付大刀 坊主山一 号墳出土「京都府」▽人物埴輪 青山一 号墳出土「京都府」
- 【福知山市】▽絹本着色釈迦十六善神像「観音寺」▽絹本着色薬師十二神将像「観音寺」▽絹本着色仏涅槃図「観音寺」▽絹本着色千手観音像「観音寺」
- 【綾部市】▽木造地藏菩薩半跏像「施福寺」▽絹本着色釈迦十六善神像「正曆寺」
- 【亀岡市】▽木造狛犬（本殿内安置）「愛宕神社」▽木造狛犬「愛宕神社」▽

木造薬師如来坐像「薬音寺」

- 【城陽市】▽木造大将軍神像「巨椋神社」
- 【長岡京市】▽光明寺障壁画（旧宝永度内裏常御殿障壁画）「光明寺」
- 【南丹市】▽紙本着色小出吉政像「南丹市」▽紙本着色小出吉政夫人像「南丹市」▽絹本着色小出吉親像「南丹市」▽絹本着色小出吉親夫人像「南丹市」▽絹本着色小出英知像「南丹市」▽絹本着色小出英知夫人像「南丹市」▽絹本着色小出英貞像「南丹市」▽絹本着色小出英貞夫人像「南丹市」▽絹本着色小出英常像「南丹市」▽絹本着色小出英常夫人像「南丹市」▽絹本着色小出英常夫人像「南丹市」▽絹本着色小出英常夫人像「南丹市」▽絹本着色小出英常夫人像「南丹市」▽絹本着色小出英常夫人像「南丹市」▽絹本着色小出英常夫人像「南丹市」
- 【木津川市】▽木造牛頭天王半跏像「松尾神社」▽木造女神坐像「松尾神社」▽絹本着色最勝曼荼羅圖「現光寺」
- 【井手町】▽木造不動明王坐像「西福寺」
- 【和束町】▽木造不動明王立像「金胎寺」▽木造毘沙門天立像「金胎寺」
- 【精華町】▽木造十一面観音立像「如来寺地蔵講」▽木造菩薩立像「蓮墓寺」▽木造薬師如来立像「蓮墓寺」▽木造薬師如来坐像「想念寺」
- 【京丹波町】▽木造阿弥陀如来立像「亨徳寺」▽木造阿弥陀如来及び兩脇侍像「大圓寺」
- 【与謝野町】▽紙本墨画淡彩禅宗祖师図屏風「常栖寺」

〈史跡・名勝〉

- 【宇治市】▽淀藩主永井家墓所

京都の文化財（第三十九集）

令和四年一月発行

発行 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
京都府教育委員会
編集 京都府教育庁指導部文化財保護課

